

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

| | | | | |
|----------------|--------------------|------|--------------|------|
| ○事業所名 | ドリームズ・21st 津セノパーク校 | | | |
| ○保護者評価実施期間 | 2025年 12月 4日 | | 2026年 1月 16日 | |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 74世帯 | (回答者数) | 42世帯 |
| ○従業者評価実施期間 | 2025年 12月 4日 | | 2026年 1月 16日 | |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 7 | (回答者数) | 7 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2026年 1月 30日 | | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--|--|---|
| 1 | 朝礼時に前日の振り返りを行い、お子様の様子について情報を共有し、学習やレッスンでの取り組み内容、日々の支援について話し合いを行っている。 | より良い支援のために日々、改善案を出しながら、向上を図っている。毎日の情報伝達リストを作成し、共有を行っている。 | 支援に関わるパートさんを含めての校舎ミーティングの回数を増やしていきけるようにする。 |
| 2 | 長期休暇や早帰りの期間にイベントを行っており、子供たちが調理やお買い物の体験、コミュニケーションが取れる機会を設けている。イベントの運営では、子供たちに企画してもらった内容もあり、保護者様より好意的なご意見もいただいた。 | イベント内容を定めるにあたって、子供たちからの意見もたくさん取り入れた。ニーズの高いイベントを行うことで、より楽しめるようにしている。 | 早帰りの期間ではない普段の平日は、なかなかイベントの機会を設けることができなかったが、中高生クラスのおやつ時間を使ったイベントをはじめたので、これを定期的に行っていく。また、子供たちが企画するイベントも回数を増やしていきけるようにサポートしていく。 |
| 3 | 時間割が決まっており、スケジュールに沿って学習やパソコンレッスンをやっている。状況に応じて別室で取り組めるようにしており、集中できるように環境を整えている。漢字検定・パソコン検定を実施しており、学習のモチベーションアップにもつながっている。 | 漢字検定やパソコン検定、校舎独自の表彰状をお渡しした際には、表彰式を行っている。玄関には写真を掲示しており、それを目標に取り組んでいるお子様もおられる。 | 引き続き、学習状況の様子を保護者様にお伝えしながら、より良い支援へとつなげていく。特に漢字検定の学習では宿題をお渡しさせていただくことがあるので、ご家庭と連携しながら合格に向けて取り組んでいく。パソコンレッスンでは、職員の研修を通じて技術向上を図る。 |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|---|---|
| 1 | 災害などの緊急時や感染症について、事業所での対応が分からないという回答を複数いただいた。台風による休校やインフルエンザになった際の出席について、ご質問をいただくことがあるので、再度お知らせする必要がある。 | 契約時のご説明以降は、ご質問をいただいた保護者様への返答にとどまっていたところがあり、全体にお伝えする機会を設けていなかった。 | 改めて災害時の対応について郵送で書面をお送りした。緊急時の対応については、LINEを活用して避難訓練の様子と合わせて、連絡を行っていくようにしていく。定期的な周知が必要であると感じる。 |
| 2 | 校舎が2階建てであるため、バリアフリーについてのご意見をいただいた。手すりはあるものの、特に低学年のお子様が上がられる際には、見守りと声かけを行っている。 | エレベーターを設置するといったことが難しく、見守りと声かけで対応してきた。 | 引き続き、階段を上がられる際には、注意して見守りを行っていく。また、現在は小学生が2階の教室を使用しているが、来年度よりは1階の教室と分けて、活動を行っていく。階段を上がられるのに不安なお子様については、1階の教室を使えるように配置を考えていく。 |
| 3 | 虐待防止研修をはじめ、各種研修に参加する職員に限られており、全体として参加する機会が少ない。 | 研修の時間帯や業務の関係で全体での参加は難しいところがあった。 | 研修によっては参加人数が決まっているものもあるが、引き続き毎年出席者が同じにならないように参加していく。また、出席者が研修の内容を共有する時間を設けていく。 |